

2027
2015
10/1・15

府民の友

発行所/大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)0351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人/有田 洋明 編集人/小松 康則
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

さよなら維新政治
府民大集合
10月29日(木)
19:00~
大阪市中央公会堂



咲洲・大手前
「二重庁舎」

トップダウン
相対評価

「都構想」再燃

人員削減

はもうゴメンだ!

住民が主人公の府政を実現しよう

7年間にわたる貴金カット、職員基本条例にもとづく相対評価の強行導入と人員削減、トップダウンの府政運営…いま職場では年々残業が増え、給与制度や休暇制度も改悪され、働きづらい状況が広がっています。
また、府民生活に必要な予算も次々削減され、やりがいのある仕事ができない状況も生まれています。
11月22日には、大阪府知事、大阪市長のダブル選挙が行われます。やりがいのある仕事、健康で安心して働き続けることのできる職場をめざすうえでも大切な選挙です。府民・職員の要求実現のために、必ず投票に行きましょう。

府民要求連絡会・大阪市対策連絡会 「維新政治ストップ!学習決起集会」を開催

10月7日、府民要求連絡会(府民連)と大阪市対策連絡会(市対連)は、「維新政治ストップ!学習決起集会」を開催し、会場があふれるほどの170人が参加しました。

学習会では、奈良女子大学教授の中山徹さんが「一点共闘から新たな自治体建設へ」維新に奪われた8年間を取り戻すために」と題して講演しました。講演の内容を紹介いたします。

奪われた8年間

2008年1月に橋下知事が誕生しました。当時求められていた自治体は、極端な競争主義を持ち込む新自由主義的な「改革」から市民を守る防波堤になるということでした。新自由主義に対抗する施策を地域で展開し、市民本位の行政へと改革する必要があります。

「大阪都構想」とは 何であったのか

「大阪都構想」は政令部

ここには話し合いを経て合意を形成するという姿勢はまったくなく、「維新でなければ何もできない」ということを住民に印象づけるためのもので、府政・市政の私物化といえます。
なぜ大阪で維新が支持されたのか
この間の府政・市政は、従来とは比べものにならないほど市民サービスを削減したにもかかわらず、安定した支持を得ています。これは過去の府政・市政が決して住民サービスを充実した行政ではなかったもので、多くの住民が「何か変えてくれる」という漠然とした期待を持っているからです。

一点共闘から持続的な共同、 新たな自治体建設へ

今の府政・市政の問題、実態を知らせるとともに、新たに誕生した保守層から革新層までの共闘を一つの革新の契機と捉え、新自由主義から地域を守り、市民生活と地域経済を好転させる持続的な共同に発展させることが大切です。持続的な共同とは、共同に立脚した自治体をつくるということです。

大きく広がった 市民的共同

大阪では、保守的な人から革新的な人まで、各層・各地域で共闘・共同が広がっています。この共闘・共同の力が住民投票で「都構想」の結果を生み出しました。
こうした共闘・共同が生じたのは、さまざまなか

え方や意見の違いはあっても、いまの競争至上主義の新自由主義的なやり方では大阪はよくなる、大阪を守らなければならないと考える人たちが立ち上がり、力を合わせたからです。

関東・東北豪雨災害への救援カンパにとり くんでいきます。 組合員のみならずのご協力お願いします。

「大阪都構想」は政令部

遊歩道

国民の意見に反して、競争法案が可決され「とうとう日本も戦争する国の仲間入りか」と落ち込んだ。職場でもこちらが話題にしないと、それほど話題にもならず、孤独な気持ちになり、後ろ向きな気持ちになることもあった▼先日、生活保護を受給されている方から「戦争法案が可決され、ミサイル等高額なものを大量につくる方向になっている。また自分たちの保護費が減らされるんじゃないか?」という相談が何件かあった。その声は切実で、もうあとがない切迫されたものだった。「本当にそうなるかもしれない」と思いつつも、なんとか今を安心して暮らせるようにお答えした▼生活保護を受けられている方は、今年から保護費も削減され、家賃設定も下げられ、すでに限界まで切り詰めた生活をされている。やはり、こういった住民の生活を知っている自治体職員として、なんとしても戦争法案を撤回させるような行動をしなければならぬとあらためて思った。また、自分の気持ちを支えるために、同じ気持ちの仲間とつながり、学習し、後ろ向きにならず前を見てがんばりたい。